



# 只見町ブナセンターだより

## <季節のごあいさつ>

連日の雨によりすっかり梅雨の天候となっておりますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。ブナセンターでは4月より新たなブナセンター長およびブナセンター館長が着任となり、新しい体制で歩み始めました。今まで以上に充実した活動を目指してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 【就任のごあいさつ】

### 夢を追い求めて

この度、ブナセンター長職を拝命いたしました。日増しにその職務の重さを痛感しております。ユネスコエコパークの認定以降様々な立場の方がその振興のためにご尽力されてきましたことに心から敬意を表したいと思います。

本職の任務は、只見ユネスコエコパークの理念・目的（①自然等の保護・保全②地域振興③学術調査研究・人材育成）を達成するために、町内の様々な取り組みを統括していくことにあります。そこで取り組みたいことの第一は、「更なる町民の誇りの醸成」です。第二は、「総合行政としてユネスコエコパークが機能する」ことです。特に、今後10年間の地域経済振興の基盤強化です。第三は、海外も視野に入れた「諸関係機関等との連携」です。第四は、消滅自治体を回避する「地域人育成」です。最後になりますが、「日本のユネスコエコパークトップランナーは只見」を目指していきたいと思ひます。夢ばかりで微力ゆえ、今後の皆様方のご指導ご鞭撻のほどをお願ひ申し上げます。 (只見町ブナセンター長 齋藤修一)



### ブナセンター館長としての私の役割

皆さま、この度はお世話になります。4月から非常勤のブナセンター館長をつとめています紙谷（かみたに）智彦です。前職は大学教授で、博物館運営の経験はありません。そこで、ブナセンター館長としての私の役割や目標を定めることから始めています。この3ヶ月間にお会いした町民の方々にブナ館や田子倉館の印象をお尋ねしたところ、充実した展示や解説、また、研究者が訪れているらしいことは知っていても、頻りに施設を訪れるほど身近に感じてはいないとの感想を少



なからず頂いています。優れたこの施設を効果的に町民の皆さまに知っていただき、頻繁に足を運んで頂くために必要な仕掛けが必要かもしれません。誰にもわかりやすく、興味がもてる展示の工夫はもちろんのこと、異なる分野の方々を招いての活動連携、只見町の環境や風土に根ざした特徴ある事業活動の紹介など、従来の枠組みにとらわれることなく、取組んでいきたいと考えています。また、ユネスコエコパークで利活用が可能なエリアの旧薪炭林においては、持続可能な形で広葉樹に付加価値を生み出す取組みにも関わっていただけると考えています。ご相談に伺う際にはご指導をよろしくお願いいたします。

(只見町ブナセンター館長 紙谷智彦)

【只見町ブナセンター運営委員会】 6月7日(金)

只見町ブナセンター運営委員会の本年度最初の会議を開催しました。はじめに、新たに委員として、新潟県十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ学芸員の小林誠様、朝日小学校校長の米畑健一様に委嘱をさせていただきました。菅家町長から忌憚のないご意見を頂きたいとの挨拶の後、星事務局長から今年度の組織体制・事務局員の紹介を行いました。協議に先立ち、前回の運営委員会での委員の皆様からの意見に対して紙谷センター館長から進捗状況を報告しました。協議では、最初に2019年度の事業計画について事務局から説明し、委員の皆様からは様々なご意見を頂戴しました。全体をまとめると、集落周辺の水林(水源林)に代表される只見町の文化的景観の価値を再認識すること、町民との積極的な交流・連携のもとに活動していくこと、常設展示について体系的でわかりやすい展示を目指すこと、寄贈資料の活用・保存を検討することなどが指摘されました。ブナセンターは、事業計画を適切に実施していくとともに、ご指摘いただいた内容を踏まえて、改善に取り組んでまいります。



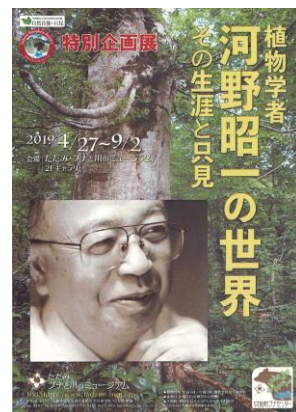
▲運営委員会の様子

===== 開 催 中 =====

【特別企画展】

## 植物学者・河野昭一の世界 その生涯と只見

只見町ブナセンターの初代館長(後に名誉館長)を務められた故河野昭一先生(京都大学名誉教授)は、著名な植物学者であり、教育者として、また、自然保護運動の活動家としても多くの功績を残されました。只見町では、町史編さん事業の一環として行われた「ブナ林総合学術調査」を指導され、その成果の中からブナ林に代表される只見



町の自然環境の価値を科学的に裏付け、「奥会津森林生態系保護地域」の設定や世界自然遺産登録運動にも尽力されました。さらに只見町ブナセンターの設立、「ただみ・ブナと川のミュージアム」開設に大きな役割を果たされました。本企画展は、植物学者河野昭一先生の経歴と業績を紹介するとともに、只見町における活動と貢献を顕彰することを目的に開催中です。

■会 期：2019年4月27日（土）～2019年9月2日（月）

■場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

## =====**行 事 案 内**=====

### 【『ただみ観察の森』観察会】

『ただみ観察の森』は、只見町の自然環境や野生動植物の現状を理解し、身近に触れてもらおうと共にその保全を図ることを目的として、町内に7カ所を指定させていただいています。観察の森にはそれぞれに特徴的な自然環境や人との関わりがあります。ブナセンターはこれら観察の森において、昨年度に引き続き、今年度も地元集落のご協力で観察路を整備しながら、観察会を行っています。2019年度の第1弾となる観察会は、楢戸の集落裏に広がるブナ二次林を観察地とします。只見町の自然の特徴や自然を拠り所とした伝統的な暮らしを理解する機会となりますので、お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

### 楢戸のブナ二次林を見に行こう！

開催日時：2019年7月20日（土） 9時30分～11時30分

集合場所：ただみ・ブナと川のミュージアム（9時30分）

観察場所：楢戸のブナ二次林

持ち物：飲み物、雨具

装 備：長袖・長ズボン、歩きやすい靴

参加費：高校生以上200円、小中学生100円（保険料）

定員30名（事前予約制）

※荒天時は中止あるいは時間を短縮することがあります。

お申し込み・お問い合わせは只見町ブナセンターまで

☎0241-72-8355

### 【猪又かじ子氏写真教室】

只見町にアトリエをかまえ、その四季の自然を長年にわたって撮影されている写真家の猪又かじ子氏を講師にお招きした写真教室を開催します。猪又かじ子氏から写真を撮るコツや構図の工夫などを教えていただきながら、写真を通して只見の自然を観察します。写真撮影は初心者という方でもご参加いただけます。今回は只見町の只見川最下流部に位置する十

島・塩沢を撮影地とします。只見川や雪食地形・モザイク植生の山並みを見ることができます。撮影後は、塩沢集落内にオープンした「そば処 しおさわ庵」でお食事をいただきます。午後は店内をお借りし、撮影した写真を見ながら猪又かじ子氏から講評をいただきます。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

## 夏の只見 十島・塩沢を撮る！

開催日時：2019年8月4日（日） 9時30分～14時

集合場所：河井継之助記念館駐車場（9時30分）

撮影場所：十島・塩沢

持ち物：デジタルカメラ※、飲み物、帽子など暑さ対策をお願いします

※コンパクトカメラ・スマートフォンカメラも可、申込時に持参のカメラの種類と記録媒体の種類（SDカードなど）をお伝えください

参加費：高校生以上 500 円、小・中学生 400 円（保険料含む）

※昼食代が別途必要です（1,000 円～1,500 円程度）

定員 20 名（事前予約制） 申し込み締め切り 8月2日（金）

※荒天時は観察地の変更や時間を短縮することがあります。

お申し込み・お問い合わせは只見町ブナセンターまで

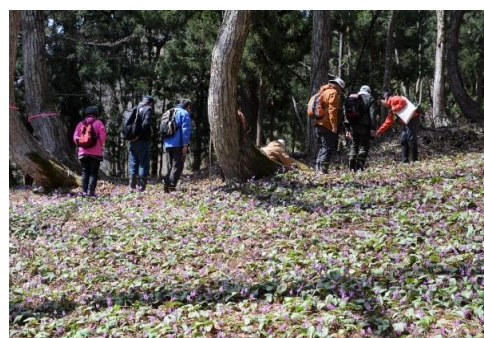
☎0241-72-8355

## ===== 活 動 報 告 =====

【自然観察会】 4月28日（日）

### 春の花観察会

蒲生かたくり公園とその周辺で「春の花観察会」を開催しました。今年は積雪が少なかったため、例年より時期を少し早めての観察会となりましたが、無事に只見の春植物を観察することができました。当日は晴れ間も広がり、観察日和となりました。蒲生かたくり公園は、会津のマッターホルンと呼ばれ親しまれている蒲生岳の登山口にあり、蒲生集落の方々によって維持管理され



▲カタクリ群落を観察する参加者

ています。クリを主とする落葉広葉樹二次林の下草を刈ることで陽の光が林床までよく届き、カタクリをはじめとする春植物の生育に適した環境となっています。

観察会では、国道沿いの蒲生岳駐車場から集落内を歩いてかたくり公園まで、蒲生岳を眺めながら雪食地形の成り立ちやモザイク植生、およびクリ林に広がるカタクリ群落などを観

察しました。公園やその周辺に生育するカタクリはほぼ満開で、キクザキイチゲ、アズマイチゲ、エゾエンゴサク、ヤマエンゴサク、スミレサイシン、コシノコバイモなども見られました。これらは、雪解けとともに地上にあらわれ、春に花を咲かせ結実した後、夏には葉も枯れ、翌年の春まで地中にて球根や地下茎の姿で過ごします。このような春先の短い期間に花を咲かせ、山野を彩る春植物はスプリング・エフェメラル（春の儂いものたち）と呼ばれています。

公園でカタクリ群落を観察した後は、周囲のブナ林や土手沿いの草地にも足を運び、植物を見て回りました。蒲生岳の登山道を少し登ると、小規模のブナ林があります。そこでは開き始めたブナの新葉や秋に落ちた堅果、林床に生育するユキツバキの花が見られました。また草地では、上記の春植物から少し遅れて開花するニリンソウの花も確認されました。このように、環境によって植物の顔ぶれも異なり、それぞれの種に好適な生育条件があることが分かります。

観察会の参加者は11名でした。只見町を代表する春植物の生態や、多雪により形成された蒲生岳の特徴的な植生について理解を深めるよい機会となりました。



▲蒲生岳を背景に集合写真

【自然観察会】 4月29日（月・祝）

## 新緑のブナ林観察会

布沢癒しの森で「新緑のブナ林観察会」を実施しました。今年の観察会では、ブナは、茶色の冬芽からライトグリーンの新葉に替わる過渡期であり、参加者は冬の名残りとも春の訪れの両方を見てとることができました。また、足元に視点を移せば、ブナの実生が出てきたばかりで、実際に手で触れてみて、その感触や構造を確認することができました。ブナの結実とは基本的には隔年結実で、5～7年に一度豊作年があります。昨年の只見はブナの結実の豊作年にあたり、地面からはたくさんの実生が出ていました。ブナの生育と積雪には重要な関係があり、積雪は、ブナの堅果をげっ歯類の捕食から守り、乾燥を防ぐなど、ブナの更新（自然に落下した種子から樹木が成長すること）に役立っています。



▲ブナ林を見上げる参加者

ブナの生育は立地条件や環境条件に左右されるため、決して一様ではありません。参加者が訪れた交流広場では、「国界の大ブナ」と呼ばれるブナが倒れたために、上空の樹冠にぼつかりと隙間が生じ、ブナによって遮られていた日差しが地面にまで降り注ぎようになり、タラノキなどの明るい環境を好む陽樹が大きく生育していました。このようなギャップ（林冠疎開）の形成により、新しい世代のブナが大きく成長し、ブナ林の世代交代が進む場合があります。「青春広場」では、ブナの二次林（一度伐採された後に再生した林）を見渡すことができました。これらのブナをよく観察すると、同じ時期に更新したにも関わらず、高さにばらつきがあるのがわかります。同じ場所で生育しているブナであっても、様々な条件により、生育のしかたに違いが見られるのです。

ブナの他にも、エゾユズリハやヒメアオキなどの常緑低木や、タムシバという白い花を咲かせる樹木、香りに特徴があるケアブラチャンなどを観察することができました。耳をすませば、ドラミングと呼ばれるキツツキ類が木をつつく音や、イカルの鳴き声が聞こえました。15名の参加者は癒しの森を散策しながら、只見町の自然を代表するブナ林について学びました。



▲国界の大ブナの前で集合写真

【自然観察会】 6月30日（日）

## 深沢集落 余名沢ブナ林—ブナ二次林のこれからを考える

季の郷湯ら里から近い余名沢のブナ林で自然観察会を実施しました。観察路沿いでは、極めて良好に成長しているミズナラ林、スギ林の高さに感心しながら、目的のブナ二次林を目指しました。このブナ林は薪炭利用やスギの植林が混ざるなど、人との関わりで成立した二次林です。地表に残るかじご焼きの跡からもその歴史を伺い知ることができます。同じ二次林でも、混みあった部分では個々のブナの木の枝葉の広がりが少なく、一方、隣接木との間が広々としたブナでは枝葉を大きく広げ、明らかに良く成長している様子が比較できました。さらに林床に育つブナ後継樹の大きさの違いや隣接するスギ林に進出するブナ、トチノキ、ホオノキの稚樹も観察できました。紙谷館長からは新潟県魚沼市の旧薪炭林で実施しているブナ林業を例に、ブナ材の活用や今後の見通しについても紹介させていただきました。大雨にもかかわらずキャンセルせずに参加された町内外の13名の皆さんは、雨のブナ林を堪能された様子でした。



▲雨のブナ林を見学する参加者

▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼

【「河野昭一先生企画展」記念講演会】

6月30日（日）

## 只見のブナ原生林は世界の宝

ただみ・ブナと川のミュージアムにおいて開催中の特別展「植物学者・河野昭一の世界―その生涯と只見」を記念し、講演会を開催しました。ブナセンターの初代館長であった河野昭一先生は、2016年10月にその生涯を閉じられました。講演会では、只見町での河野先生の活動を振り返り、この地域への貢献を慰労し顕彰する会として企画したものです。菅家町長の挨拶のあと、講演会と座談会を行いました。

### 【講演会】植物学者・河野昭一先生がブナ林に残した足跡

**講師：北村系子 氏**（森林総合研究所北海道支所主任研究員）

河野先生が指揮した只見町の「ブナ林総合学術調査」（2002～2004年）に参加された北村系子氏に河野先生のブナに関する研究活動についてお話しいただきました。北村氏は30年ほど前から河野先生にブナ林の研究指導を受け、日本のブナをはじめ、北米のアメリカブナ、韓国のタケシマブナなどの調査と一緒にされました。河野先生は北海道大学での学生時代に館脇操教授のもとでブナ林の調査方法を学ばれました。それは、森の中にベルト状に調査区を設置し、その中の全ての植物を調べるというベルトトランセクトという調査法でした。河野先生はこのやり方を踏襲し、アメリカブナの調査では10m×100mの調査区内に出現する芽生え、若木、大木など全てのブナについて大きさや位置を丹念に記録しました。

また、河野先生は、生物多様性という視点から、ブナ林内の遺伝子の多様性も調査されました。芽生え集団では保有する遺伝子は多く、成熟個体集団では少なくなることを明らかにしました。ほかにも変わった樹形のブナやブナ林に興味を持たれ、その遺伝的背景に関心を持っておられたということです。

只見町のブナについては、このような世界的にみて非常に雪の多い地域に生育する植物は他にはないということで河野先生は貴重だと考えられていました。河野先生は只見町においてもベルトトランセクトによるブナ林調査を実施しています。広面積のブナ林や溪畔林、二次林といった様々なブナ林を調査し、小面積の林でも遺伝子の多様性が高いこと、あるいは林分に特有の遺伝子があることなど、只見町のブナの遺伝子の多様性について科学的に明らかにされました。参加者は、河野先生の植物学者としての姿勢を改めて知ることができました。



▲講演する北村系子氏

## 【座談会】河野先生の思い出

**司会：紙谷智彦**（只見町ブナセンター館長）、**鈴木和次郎 氏**（元只見町ブナセンター館長）、

**中岡 茂 氏**（只見ユネスコエコパーク推進専門監）、**新国 勇 氏**（只見の自然に学ぶ会代表）、**北村系子氏**

第2部では、河野先生に縁のある方々をお招きし、河野先生との思い出を語っていただく座談会を行いました。中岡 茂氏はもと林野庁職員で、河野先生からは国有林事業に関してしばしば厳しい言葉を受けたこともありました。それでも林野庁の現役時代に緑の回廊計画を創設するなど自然保護運動には一定の理解をしていたと話されました。鈴木和次郎氏は、第2回世界ブナサミットでユビソヤナギの講演をしたのが、只見町での河野先生との関わりの最初でした。河野先生がブナセンターを退いてからは、館長として尽力されました。新国 勇氏は、河野先生の只見町での活動に常に関わってこられました。今回の座談会のために大量の貴重な資料を提供されました。北村系子氏は河野先生のブナ林調査に同行され、第1回世界ブナサミットでは基調講演をされました。司会の紙谷ブナセンター館長は、30年ほど前に河野先生からの依頼で立山のブナ林衰退の共同研究で同行したのが出会いでした。



▲座談会の様子

座談会では、河野先生の動画や新聞記事、写真を見ながら、只見町での活動を経年的に振り返りました。2002年に日本野鳥の会南会津支部（現・南会津連合）は、当時のブナ原生林保護運動の一貫として河野先生へお声掛けをし、只見町での最初の講演会の開催に至りました。新国さんからはこれが縁で河野先生と只見町との関わりが始まったことが語られました。河野先生はこの講演会で「南会津のブナは地球規模の財産」と言われ、様々な機会を通して奥会津のブナ林の価値を世界に向けて発信して下さいました。その後の活動も時系列に沿って座談会の参加者が解説されました。2007年の只見町ブナセンターの発足が今日の基礎となりました。河野先生が最後に只見町を訪れたのは南方熊楠賞を受賞された翌年の2012年でした。木ノ根沢のブナ林で観察会が開催され、只見のブナ林の中での河野先生と参加者の交流の様子や記念撮影した写真が座談会会場の画面に大きく映し出され当時を偲びました。

閉会にあたって齋藤修一センター長より、ご参加いただいた方々への感謝とこの日の学びを只見やそれぞれの故郷に活かしていただきたいとの結びの言葉がありました。会場には約60名の方々にお越しいただき、今日の只見ユネスコエコパークへと繋がった河野先生の功績に感謝し、只見町での活動を振り返りました。



## ===== お 知 ら せ =====

### 【お盆の臨時会館】

『ただみ・ブナと川のミュージアム』『ふるさと館田子倉』は、8月13日(火)に臨時開館し、お盆期間中、休まず開館します。夏の休暇で只見町に来られた際はぜひお訪ねください。

### 【新しいFacebookの開設】

只見町ブナセンターでは、以前にFacebookを運営していましたが、管理・運用方針が定まっていなかったため長らく休止していました。この度、ブナセンター活動の周知・広報を強化するため、新たに運営ポリシーを定め、Facebookを再開することとしました。つきましては、既存のFacebookアカウント(<https://www.facebook.com/info.buna>)を廃止し、新たなアカウント(<https://www.facebook.com/tadami.buna>)を作成しましたので、Facebookをご利用の方はぜひご覧ください。「@tadami.buna」で検索できます。以前のアカウントで友達やフォロワーになっていただいた方にはご迷惑をおかけしますがご理解をお願いします。なお、新しいアカウントでは管理・運営の都合上、ブナセンターから各コメントへの返信はせず、友達申請をお受けしない方針としています。ご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

### 【只見町ブナセンター新指導員の紹介】

まつざき ひろ  
**松崎 大** (只見町ブナセンター指導員・学芸専門員)

みなさま、お世話になります。郡山市出身で歴史学の国際関係史を専攻しておりますが、奥会津の歴史・民俗にも関心を抱き、三島町で1年間、集落誌調査の仕事もしました。只見町では、町民の方々が山林を利用する際の自然認識について調べてみたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



おかつゆうたろう  
**緒勝祐太郎** (只見町ブナセンター指導員)

みなさま、はじめまして。出身は山形県米沢市で、昨年度までは福島大学大学院に所属し、ブナ帯の森林や草原に生息する昆虫の生態について研究していました。これからはブナ帯に暮らす生き物の分布や生息状況を調べながら、只見の豊かな自然を伝えていきたいです。どうぞよろしく願いいたします。



### 【刊行物の発行】

新しいブナセンター刊行物が発行され、ブナセンターHPでご案内をしております。只見町ブナセンター付属施設での店頭販売だけでなく、郵送での販売もしておりますので、ご希望の方は、只見町ブナセンターまでお問い合わせください。

### 企画展解説シリーズ No.12

## 守りたい!只見の野生動植物－只見町の野生動植物を保護する条例

2017年12月～2018年6月に開催された表題の企画展を冊子化しました。詳細についてはHPをご確認ください。

## 只見の自然 只見町ブナセンター紀要 No. 7

只見町では「「自然首都・只見」学術調査助成金事業」を行い地域の自然や生活文化等について調査研究を進めています。本書はそうした学術調査研究の成果報告書です。詳細についてはHPをご確認ください。

## ▼ 只見町ブナセンター 2019年度上半期行事一覧（予定）

	企画展等	ブナセンター講座等	自然観察会
7月	4月27日～9月2日 植物学者・河野昭一の世界 －その生涯と只見		7月20日 ただみ観察の森観察会①
8月			8月4日 猪又かじ子氏写真教室
9月	9月初旬～12月 只見の地形と地質	10月 只見の地形と地質	9月 ただみ観察の森観察会②
10月			10月 只見の地形・地質観察会

＜編集後記＞4月から7月にかけて、只見町では樹木や植物の様子に季節の変化がきらびやかにあらわれていました。まだ雪が残る4月にはフクジュソウやカタクリ、キクザキイチゲなどの春植物が可憐に野山を彩り、5月になれば新緑のブナ林が山に新たな色彩を加えます。6月に要害山や蒲生岳に登ってみると、薄桃色のヒメサユリが迎えてくれました。このような季節のあらわれを自然観察会や講座などで体感していただければ幸いです。(松崎)

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2590番地

電話 0241(72)8355 ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 電子メール [info-buna@amail.plala.or.jp](mailto:info-buna@amail.plala.or.jp)

Facebook <https://www.facebook.com/tadami.buna>

付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」、「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）

入館料：高校生以上300円 小中学生200円 未就学児無料（20人以上は団体割引）



只見町ブナセンター